

医 と 社 会

責 任 者	氏 名	安武 亨	内 線	7987
	教 室	先端医育支援センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	医と社会7.5単位の一部
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医学生として図書館の利用法、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、保健学科との共修でチーム医療および患者の立場に立った医療に必要な患者の心の理解、患者とのコミュニケーションを学ぶ。同時に体験実習を通して、医師の立場から（病院実習）、リハビリ、介護の面からまた看護の面から病院やリハビリ施設で病める人の立場に立った医療を実感する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

1) 実習

- (1) 病院実習1 長崎大学病院 保健学科と共修
- (2) 病院実習2 リハビリテーション施設 保健学科と共修
- (3) 病院実習3 長崎大学病院医局

2) 医学テーマ

- (1) 臓器移植・再生医療
- (2) 医療の歴史と医の倫理
- (3) プライマリヘルスケア
- (4) 熱帯医学
- (5) 感染症とは
- (6) 対人関係
- (7) 对患者関係
- (8) チーム医療
- (9) 地域医療
- (10) ワーク・ライフバランス
- (11) 図書館の利用法、など

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する。

4. 成績評価の方法・基準

レポート、実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。講義を欠席した学生には別途課題を課します。

5. 教員名

非常勤：相川忠臣

医育支援センター：安武亨、分部哲秋、桑原宏永、松本恵

保健学科：松坂誠應、浦田秀子、千住秀明、田中悟郎、教務委員

図書館担当者（学術情報部）：志波原智美、松村悠子

非常勤：八坂貴宏（長崎県離島医療圏組合上五島病院院長）

離島・へき地医療：前田隆浩

非常勤：荒木利卓（長崎医療センター）

保健・医療推進センター：バーニック

医療教育開発センター：浜田久之

熱帯医学研究所：竹内勤

熱研内科：有吉紅也

メディカル・ワークライフバランスセンター：伊東昌子

第2外科：江口晋

非常勤：永田耕司（活水大学教授）

学外実習は別冊参照

医と社会授業予定(1年前期)

グループA

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	10	火	1	医療の歴史と医の倫理	非常勤・相川 (保健学科と共修)	第2講義室
			2	チーム医療とQOL (1)	保健学科・松坂 (保健学科と共修)	
4	17	火	1	チーム医療とQOL (2)	保健学科・浦田、千住、田中 (保健学科と共修)	第2講義室
			2			
4	24	火	1	チーム医療とQOL (3) 病院実習に向けて	医育支援センター、保健学科・ 教務委員他 (保健学科と共修)	第2講義室
			2			
5	1	火	1	図書館の利用法と実際	医育支援センター・医学分館	図書館医学分館
			2			
5	8	火	1	体験実習1 (長崎大学病院)	医育支援センター、保健学科・ 教務委員他 (保健学科と共修)	
			2			
			3			
			4			
5	15	火	1	体験実習2 (リハビリテーション施設)	医育支援センター、保健学科・ 教務委員他 (保健学科と共修)	
			2			
			3			
			4			
5	22	火	1	チーム医療とQOL (4)	医育支援センター、保健学科・ 教務委員 (保健学科と共修)	第2講義室
			2			
			3	プライマリヘルスケア	非常勤・八坂	
			4	地域医療入門	離島・へき地医療・前田	
5	29	火	1	課題学習	医育支援センター	第2講義室
			2	課題学習		
			3	臨床倫理入門	非常勤・荒木	
			4	ストレスマネジメント	保健・医療推進センター・パーニッ ク	
6	5	火	1	体験実習3 (長崎大学病院医局)	医育支援センター	
			2			
			3			
			4			
6	12	火	1	医師のキャリアパスとプロフェッショナリズム	医療教育開発センター・浜田	第2講義室
			2	熱帯医学	熱研・竹内	
6	19	火	1	感染症とは	熱研・有吉	第2講義室
			2			
6	26	火	1	なぜ、ワークライフバランスは必要か	メディカル・ワークライフバランス センター・伊東昌子	第2講義室
			2	臓器移植・再生医療	II外科・江口	
7	3	火	1	対人関係	非常勤・永田	第2講義室

医と社会授業予定(1年前期)

グループB

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	10	火	1	医療の歴史と医の倫理	非常勤・相川 (保健学科と共修)	第2講義室
			2	チーム医療とQOL (1)	保健学科・松坂 (保健学科と共修)	
4	17	火	1	チーム医療とQOL (2)	保健学科・浦田、千住、田中 (保健学科と共修)	第2講義室
			2			
4	24	火	1	チーム医療とQOL (3) 病院実習に向けて	医育支援センター、保健学科・ 教務委員他 (保健学科と共修)	第2講義室
			2			
5	1	火	1	図書館の利用法と実際	医育支援センター・医学分館	図書館医学分館
			2			
5	8	火	1	体験実習2 (リハビリテーション施設)	医育支援センター、保健学科・ 教務委員他 (保健学科と共修)	
			2			
			3			
			4			
5	15	火	1	体験実習1 (長崎大学病院)	医育支援センター、保健学科・ 教務委員他 (保健学科と共修)	
			2			
			3			
			4			
5	22	火	1	チーム医療とQOL (4)	医育支援センター、保健学科・ 教務委員 (保健学科と共修)	
			2			
			3	プライマリヘルスケア	非常勤・八坂	
			4	地域医療入門	離島・へき地医療・前田	
5	29	火	1	体験実習3 (長崎大学病院医局)	医育支援センター	
			2			
			3			
			4			
6	5	火	1	課題学習	医育支援センター	
			2	課題学習		
			3	臨床倫理入門	非常勤・荒木	
			4	ストレスマネジメント	保健・医療推進センター・バーニック	
6	12	火	1	医師のキャリアパスとプロフェッショナリズム	医療教育開発センター・浜田	第2講義室
			2	熱帯医学	熱研・竹内	
6	19	火	1	感染症とは	熱研・有吉	第2講義室
			2			
6	26	火	1	なぜ、ワークライフバランスは必要か	メディカル・ワークライフバランス センター・伊東昌子	第2講義室
			2	臓器移植・再生医療	II外科・江口	
7	3	火	1	対人関係	非常勤・永田	第2講義室

人間生物学

責任者	氏名	蒔田 直昌	内線	7031
	教室	生理学第一 (分子病態生理学)	e-mail	makitan@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	(月) 17:00~18:00		

対象年次・学期	1年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Human Biology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

これから学ぶ医学を容易に受容できるようにするために、

- (1) 人間のミクロからマクロにいたる諸器官の構造とその生理機能、ライフサイクルおよび分子細胞レベルでの生命活動の基本的知識を学んで、人間という生命の全体像を大まかに俯瞰し、把握する。
- (2) 地球というBiosphere のなかで進化し、社会生活を営む人間は環境と調和して存在しなければならない事を理解する。

人間生物学のカリキュラム上の位置づけは下記の通りである

- 1) 人間という生命の全体像を俯瞰する。
- 2) 医学がどのようなものか大まかにつかむ。
- 3) 地球、環境、社会、健康、病気、心など幅広い分野で問題意識をもち、将来何をなすべきかを考える。
- 4) 人体の構造と機能・代謝の各系を学び易くするとともに、各系がより高度の内容を教授できる。
- 5) 科学及び医学英語になじませ、英語を読み、書き、聞いて話せるようになるための基礎を作る。
- 6) 生物学で受験した人と受験しなかった人の生物学知識レベルを均一にする。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

講義：講義は教科書の予習を前提として進める。(授業予定参照)

3. 教科書、参考書等

Sylvia S. Mader著のHuman Biology 12th Edition (McGraw-Hill Companies)を教科書とするので必ず購入すること。(生協医学部店で取り扱う)

4. 成績評価の方法・基準

カリキュラム作成と担当教官の人は人間生物学運営委員会(教官6名、代表蒔田直昌)が行う。委員会は学生の講義評価を教官にフィードバックして講義内容の向上に努力する。人間生物学の評価は各担当教官によって教科書の内容に従って作られた問題の中から委員会が選択して実施する筆答試験による。

試験・講義・実習の出席状況も考慮して、60点以上を合格とする。

5. 教員名

医学部の教官が分担して講義・実習を行う。

非常勤講師：大沢一貴(先導生命科学研究支援センター)

：皆川 昇(熱帯医学研究所)

6. 備考

テキストによる予習復習を行なうこと

人間生物学授業予定(1年前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	5	木	1	科学的方法論 (1-18)	3 解剖・小路	文教
4	9	月	1	原子と分子 (19-28)	薬剤部・佐々木	第2
			2	有機化合物 (29-42)	生化学・伊藤	第2
4	12	木	1	循環 (91-104)	1 生理・蒔田	文教
4	16	月	1	組織と器官 (65-83)	3 解剖・小路	第2
			2	組織と器官 (65-83)	3 解剖・小路	第2
4	19	木	1	循環 (104-114)	循内科・前村	文教
4	23	月	1	骨と軟骨、骨格、関節 (239-261)	2 解剖・弦本	第2
			2	骨と軟骨、骨格、関節 (239-261)	2 解剖・弦本	第2
4	26	木	1	血液 (115-132)	原研内科・宮崎	文教
5	7	月	1	ホメオスタシス (84-90)	1 生理・松本	第2
			2	筋肉、筋肉収縮、運動 (262-284)	2 生理・篠原	第2
5	10	木	1	血液 (115-132)	原研内科・宮崎	文教
5	14	月	1	リンパ系と免疫 (133-154)	免疫機能・由井	第2
			2	リンパ系と免疫 (133-154)	免疫機能・由井	第2
5	17	木	1	消化 (169-195)	2 外科・黒木	文教
5	21	月	1	筋肉、筋肉収縮、運動 (262-284)	2 生理・篠原	第2
			2	薬物依存、脱髄疾患 (306-314)	1 薬理・中川	第2
5	24	木	1	消化 (169-195)	2 外科・江口	文教
5	28	月	1	リンパ系と免疫 (133-154)	免疫機能・由井	第2
			2	リンパ系と免疫 (133-154)	免疫機能・由井	第2
5	31	木	1	呼吸器系 (196-216)	2 内科・角川	文教
6	4	月	1	生態系 (545-566)	熱研病害動物・皆川	第2
			2	生態系 (545-566)	熱研病害動物・皆川	第2
6	7	木	1	呼吸器系 (196-216)	2 内科・今村	文教
6	11	月	1	人口問題、環境 (567-579)	公衆衛生・青柳	第2
			2	人口問題、環境 (567-579)	公衆衛生・青柳	第2
6	14	木	1	発生と発育 (393-418)	産婦人科・三浦	文教
6	18	月	1	生物の多様性 (579-592)	先導生科セ・大沢	第2
			2	生物の多様性 (579-592)	先導生科セ・大沢	第2
6	21	木	1	発生と発育 (393-418)	産婦人科・三浦	文教

人間生物学授業予定(1年前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	25	月	1	人類の進化 (517-544)	原研遺伝・吉浦	第2
			2	人類の進化 (517-544)	原研遺伝・吉浦	第2
6	28	木	1	感覚器 (315-338)	耳鼻科・高橋	文教
7	2	月	1	感染症 (155-168)	感染分子・西田	第2
			2	予備	予備	第2
7	5	木	1	感覚器 (315-338)	眼科・北岡	文教
7	9	月	1	腎臓・尿路系 (217-238)	2内科・浦松	第2
			2	腎臓・尿路系 (217-238)	2内科・浦松	第2
7	12	木	1	神経系 (285-292)	1解剖・森	文教
7	23	月	1	神経系 (293-299)	1解剖・森	第2
			2	神経系 (299-314)	1解剖・森	第2
			3	内分泌 (339-364)	原研分子・永山	第2
			4	内分泌 (339-364)	原研分子・永山	第2
7	19	木	1	性病 (385-392)	泌尿器科・井川	文教
7	30	月	1	生殖 (372-384)	産婦人科・吉田	第2
			2	生殖 (372-384)	産婦人科・吉田	第2
			3	生殖 (365-371)	泌尿器科・井川	第2
			4	生殖 (365-371)	泌尿器科・井川	第2

月曜 薬学部との共習 (医学部第二講堂) 7月2日まで
 木曜 医学部教養教育 (文教キャンパス)

生 体 分 子 系

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Biochemistry		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。これらの基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。

さらに講義の内容の一部は実習により再確認する。実験・学習に際しての心構え・態度を養い、また実験結果のまとめ方を学ぶ。各実験項目は各担当教官が設定した目標に従い、計画されているが、学生個々がこの項目の実験を行うことにより、何を学び、何を修得するのか、目標を定め実験にあたるのが極めて大切になる。そのためには、予習が不可欠であり、各項目の内容等については、予め各担当教官からの説明があるが、実習の手引を熟読して内容を理解した上で実験を行うこと。

2. 授業内容（講義・実習項目）

次の項目について講義を行う。

(1) 生命に必要な元素 (2)有機化合物 (3)化学反応論 (4)有機電子論 (5)不飽和炭化水素 (6)医薬品の化学 (7)生体分子(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸) (7)酵素の構造と機能 (8)代謝総論 (9)糖質の代謝 (10)脂質の代謝 (11)ヌクレオチドの代謝 (12)アミノ酸の代謝 (13)ポルフィリンの代謝 (14)臓器に特有な生化学

3. 教科書

書名	著者	出版社	定価
ヴォート生化学上下(3版) 又は ヴォート基礎生化学(3版)	村松正実 訳	東京化学同人	13,400円
	村松正実 訳	東京化学同人	7,600円

4. 成績評価の方法・基準

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とする。授業内試験も評価に用いる。実習に関してはレポート、実習状況、出欠状況等を総合して評価する。

5. 教員名

生化学：伊藤 敬、中川武弥、水崎博文、相原仁
 原研生化学：浦田芳重
 原研生化学：後藤信治
 生命薬科学専攻：石原 淳
 非常勤：宮西隆幸（環境科学部）、
 村松正実（埼玉医科大学）

6. 備考（準備学習等）

教科書による予習復習

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	9	月	3	生命に必要な元素とその振舞い	原子の電子配置、化学結合と混成起動	薬学部・	第2
			4	有機化合物の多様性	立体構造の表示と異性体の分類、命名	薬学部・	
4	10	火	3	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	第2
			4	細胞核の生化学	ゲノムの構造	生化学・伊藤	
4	16	月	3	有機化合物の振舞い	電気陰性度、酸性度、共鳴、芳香族性	薬学部・	第2
			4	化学反応論	結合エネルギーと遷移状態、速度支配と熱力学支配、反応中間体	薬学部・	
4	17	火	3	細胞核の生化学	遺伝子転写と翻訳	生化学・伊藤	第2
			4	細胞核の生化学	真核生物の遺伝子転写制御	生化学・伊藤	
4	23	月	3	有機電子論	電子の流れ図の書き方と考え方、反応の分類、極性反応、ラジカル反応	薬学部・	第2
			4	不飽和炭化水素の化学	アルケン、アルキン、芳香族化合物	薬学部・	
4	24	火	3	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	第2
			4	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	
5	1	火	3	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	第2
			4	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	
5	7	月	3	含酸素有機化合物の化学	アルコール、エーテル、カルボニル化合物	薬学部・	第2
			4	含窒素有機化合物の化学	アミン、複素環化合物	薬学部・	
5	14	月	3	生体エネルギー学の基礎(1)	エネルギー学と熱力学	薬学部・	第2
			4	生体エネルギー学の基礎(2)	生物学的酸化還元反応	薬学部・	
5	21	月	3	代謝総論	生体酸化の概念	生化学・伊藤	第2
			4	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	
5	28	月	3	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	第2
			4	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成	生化学・伊藤	
6	4	月	3	糖質の代謝	グリコーゲンの代謝	生化学・伊藤	第2
			4	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室	
6	11	月	3	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	第2	
			4	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤		
6	12	火	3	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	第2	
			4	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤		
6	18	月	3	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	第2	
			4	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤		
6	19	火	3	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	第2	
			4	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤		
6	25	月	3	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	第2	
			4	脂質の代謝	血漿リポ蛋白質の動態	生化学・伊藤		
6	26	火	3	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	第2	
			4	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成	生化学・伊藤		
7	2	月	3	核酸の代謝	ヌクレオチドの分解と再利用	生化学・伊藤	第2	
			4	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤		
7	3	火	2	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	第2	
			3	生化学実習	全体と項目1、2、3の説明	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原		実1
			4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原		
7	9	月	3	アミノ酸の代謝	アミノ酸炭素骨格の分解と合成	生化学・伊藤	第2	
			4	アミノ酸の代謝	アミノ酸の誘導体と生理活性物質	生化学・伊藤		
7	10	火	1	臓器の生化学	血液凝固と線溶系の生化学	原研生化・後藤	第2	
			2	細胞膜の生化学	生体膜の構造と情報伝達機構	原研生化・浦田		
			3	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1	
			4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原		

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
7	17	火	1	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	第2
			2	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	
			3	生化学実習	2. カラムクロマトグラフィーに関する実験	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
			4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	
7	24	火	3	生化学実習	3. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
			4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	

人 体 構 造 系 I

責 任 者	氏 名	弦 本 敏 行	内 線	7021
	教 室	解剖学第二 (肉眼形態学)	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00-18:00		

対象年次・学期	1年, 学士編入2年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Human Body Structure 1		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、骨学実習は、骨の構造を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会としても位置づけられる。

到達目標：人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学, 末梢神経学の講義および骨学実習を行う。

3. 教科書、参考書等（★は教科書、必携）

書 名	著 者	出版社	定価(税抜)
★グレイ解剖学 (for students)	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	10,000 円
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和 訳	南江堂	10,000 円
骨学実習の手びき	寺田春水、藤田恒夫	南山堂	4,000 円
分担解剖学1 (総説・骨学・筋学)	小川鼎三、森 於菟他	金原出版	9,300 円
分担解剖学2 (脈管学・神経系)	平沢 興 他	金原出版	10,600 円
分担解剖学3 (感覚器学・内臓学)	小川鼎三 他	金原出版	8,600 円

4. 成績評価の方法・基準

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学, 末梢神経学についての筆答試験および骨学についての実習試験を行い、総合的に評価する。

- ・受験資格 講義：2/3以上出席, 実習：原則として皆出席（無届欠席は失格）
- ・分野と配点 骨学実習—50点, 骨学—50点, 筋学—50点, 脈管学—50点
内臓学—100点, 末梢神経学—50点,
- ・試験と評価 ○本試験：分野毎に合否を評価
○再試験：本試験の不合格分野のみを受験
再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する。

※ 本試験, 再試験とも無届欠席は失格とする。

5. 教員名

解剖学第二教室：弦本敏行、岡本圭史、分部哲秋、佐伯和信
歯学部第一口腔解剖：真鍋、北川、小山田

6. 備考（準備学習等）

- ・骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておく。
- ・事前に配布される諸注意に沿って、必要な物を注文・購入しておくこと。

人体構造系 I 授業予定 (1年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	24	月	3	骨学 1	骨学総論	解剖 2・弦本	実(解)
			4	骨学実習 1	全身骨格の概観、配置	解剖 2・弦本、分部、岡本、佐伯	
10	1	月	3	骨学 2 (60分) 骨学実習 2	体幹の骨 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分部、岡本、佐伯、歯学部・真鍋、北川、小山田	実(解)
			4				
10	15	月	3	骨学 3 (60分) 骨学実習 3	上肢の骨 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分部、岡本、佐伯、歯学部・真鍋、北川、小山田	実(解)
			4				
10	22	月	3	骨学 4 (60分) 骨学実習 4	下肢の骨 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分部、岡本、佐伯、歯学部・真鍋、北川、小山田	実(解)
			4				
10	29	月	3	骨学 5 (60分) 骨学実習 5	頭蓋 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分部、岡本、佐伯、歯学部・真鍋、北川、小山田	実(解)
			4				
11	5	月	3	骨学 6 (60分) 骨学実習 6	講義:骨の連結 実習:頭蓋 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分部、岡本、佐伯、歯学部・真鍋、北川、小山田	実(解)
			4				
11	12	月	3	筋学 1	筋学総論、頭頸部の筋	解剖 2・弦本	第 1
			4	末梢神経学 1	末梢神経学総論、脊髄神経①	解剖 2・弦本	
11	19	月	3	筋学 2	胸部、腹部の筋	解剖 2・弦本	第 1
			4	末梢神経学 2	脊髄神経②	解剖 2・弦本	
11	26	月	3	筋学 3	背部の筋、上肢の筋①	解剖 2・弦本	第 1
			4	末梢神経学 3	脊髄神経③	解剖 2・弦本	
12	3	月	3	筋学 4	上肢の筋②、下肢の筋①	解剖 2・弦本	第 1
			4	末梢神経学 4	脳神経①	解剖 2・弦本	
12	10	月	3	筋学 5	下肢の筋②	解剖 2・弦本	第 1
			4	末梢神経学 5	脳神経②	解剖 2・弦本	
12	17	月	3	内臓学 1	内臓学総論、消化器系①	解剖 2・弦本	第 1
			4	末梢神経学 6	自律神経系	解剖 2・弦本	
1	7	月	3	内臓学 2	消化器系②	解剖 2・弦本	第 1
			4	脈管学 1	脈管学総論、心臓①	解剖 2・弦本	
1	8	火	4	内臓学 3	消化器系③	解剖 2・弦本	第 1
1	15	火	4	内臓学 4	呼吸器系①	解剖 2・弦本	第 1
1	21	月	3	内臓学 5	呼吸器系②、泌尿器系①	解剖 2・弦本	第 1
			4	脈管学 2	心臓②、動脈系①	解剖 2・弦本	

人体構造系 I 授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
1	22	火	3	内臓学 6	泌尿器系②、男性生殖器系	解剖 2・弦本	第 1
			4	脈管学 3	動脈系②	解剖 2・弦本	
1	28	月	3	内臓学 7	女性生殖器系	解剖 2・弦本	第 1
			4	脈管学 4	動脈系③	解剖 2・弦本	
1	29	火	3	内臓学 8	内分泌器系、感覚器系	解剖 2・弦本	第 1
			4	脈管学 5	静脈系、胎児循環、リンパ系	解剖 2・弦本	

分子遺伝系

責任者	氏名	吉浦 孝一郎	内線	7118
	教室	原研遺伝 (人類遺伝学)	e-mail	kyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日～金曜日：13時～17時		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Molecular Genetics		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

基礎医学分野のみならず臨床医学分野を学ぶ上で重要である分子遺伝学の基礎知識を講義する。遺伝学、特に、ヒトの遺伝・多様性について基本的な暗記事項から幅広い応用力を養成し、思考力を養うことができるようになることを目的とする。本講で身につけた応用力・思考力によって、遺伝医療のみならず全ての分野を含めて、将来の医療人としての重要かつ基本的な応用力・思考力を身につけることができる。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

分子遺伝学の前提となるヒトの遺伝現象の理解から始め、DNA・染色体・ゲノム構造と機能、疾患発症に関わる分子病理、遺伝子治療、遺伝子解析に関する生命倫理まで講義する。遺伝学とはもともと親から子に伝わる現象と多様性を解析する学問だが、現在ではDNAからその現象の説明を付けようとする学問領域となってきた。本講義を通して、メンデル遺伝のマクロの見方から、分子遺伝のミクロの見方までを身につけ、単一遺伝子病から多因子病まで将来の臨床の場に役に立てられるような幅広い知識と応用力を習得して欲しい。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
遺伝医学への招待 第4版	新川詔夫・阿部京子	南江堂	1,890 円
ヒトの分子遺伝学 第3版	村松正實 監修	メディカルサイエンス・インターナショナル	11,550 円
ハートウェル遺伝学第1版	菊池昭彦 監訳	メディカルサイエンス・インターナショナル	10,500 円

4. 成績評価の方法・基準

○期末試験：授業内容にそった筆答試験 (100点満点)
以上の総計60点以上を合格とする。

5. 教員名

大学院医歯薬学総合研究科

人類遺伝学 吉浦孝一郎 (教授), 木下晃 (講師)

分子設計学 永山雄二 (教授)

新興感染症病態制御学 松山俊文 (教授)

精神神経科学 黒滝直弘 (講師)

薬物治療学 塚元和弘 (教授), 近藤新二 (准教授)

産婦人科学 三浦清徳 (講師)

非常勤講師 松本直通 横浜市立大学大学院環境分子医科学 (教授)

〃 平山謙二 熱帯医学研究所 (教授)

〃 近藤達郎 みさかえの園むつみの家 (医師)

〃 松本 正 みさかえの園むつみの家 (医師)

〃 木住野達也 先端生命科学支援センター (准教授)

〃 原田直樹 三菱化学メディエンス株式会社 長崎ラボラトリー (所長)

6. 備考 (準備学習等)

上記教科書による予習。期末試験の再試験は行なわないので注意。体調不良等の突発的な事情による試験欠席については、追試験を考慮する。

分子遺伝系授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	24	月	1	遺伝医学総論I	細胞生物学総論I	原遺・吉浦	第1
			2	遺伝医学総論II	細胞生物学総論II	原遺・吉浦	
9	25	火	4	遺伝医学総論III	遺伝医学の特性・医学における遺伝学の役割	原遺・吉浦	第1
10	1	月	1	メンデル遺伝学I	ヒトの形式遺伝と特性	原遺・吉浦	第1
			2	メンデル遺伝学II	ヒトの形式遺伝と特性	原遺・吉浦	
10	15	月	1	細胞遺伝学I	染色体の構造と解析法	原遺・吉浦	第1
			2	細胞遺伝学II	臨床細胞遺伝学・染色体異常症	原遺・吉浦	
10	22	月	1	遺伝子の構造I	核酸の生化学	原遺・吉浦	第1
			2	遺伝子の構造II	ヒトゲノム・遺伝子の構造と機能	原遺・木下	
10	29	月	1	遺伝子の構造III	転写・翻訳の機構	薬物治療学・近藤（新）	第1
			2	遺伝子の構造IV	ヒト遺伝子の発現と制御	薬物治療学・近藤（新）	
11	5	月	1	ミトコンドリア遺伝学	ミトコンドリアDNAと遺伝病	原遺・木下	第1
			2	遺伝子検査法	分子遺伝学に必要な分子生物学的技術	原遺・吉浦	
11	12	月	1	分子病理学I	遺伝子検査法と疾患発症機構I	原遺・吉浦	第1
			2	分子病理学II	遺伝子検査法と疾患発症機構II	精神科・黒滝	
11	19	月	1	エピジェネティクスI	エピジェネティクス機構	先導生科セ・木住野	第1
			2	エピジェネティクスII	エピジェネティクスと疾患	先導生科セ・木住野	
11	26	月	1	臨床遺伝学I	遺伝性疾患の臨床I	非常勤・近藤（達）	第1
			2	臨床遺伝学II	遺伝性疾患の臨床II	非常勤・近藤（達）	
12	3	月	1	ヒトゲノム医学I	最先端ゲノム医学I	非常勤・松本（直）	第1
			2	ヒトゲノム医学II	最先端ゲノム医学II	非常勤・松本（直）	
12	10	月	1	集団遺伝学	集団遺伝学、遺伝子多型、遺伝的浮動	原遺・吉浦	第1
			2	多因子遺伝基礎	多因子疾患と関連解析の基礎	原遺・吉浦	
12	17	月	1	分子病理学III	遺伝子改変動物の疾患解析への応用	感染防御・松山	第1
			2	分子病理学IV	腫瘍遺伝学	感染防御・松山	
1	7	月	1	テーラーメイド医療	生活習慣病の分子遺伝学	薬物治療学・塚元	第1
			2	免疫遺伝学	免疫関連遺伝子と遺伝学	非常勤・平山	
1	21	月	1	テーラーメイド医療	薬理遺伝学	薬物治療学・塚元	第1
			2	遺伝子治療	遺伝子治療の原理と応用	分子設計・永山	
1	28	月	1	出生前診断	遺伝性疾患と出生前診断	産婦人科・三浦	第1
			2	遺伝子解析と生命倫理	遺伝子解析・検査に関わる生命倫理	非常勤・松本（正）	

神 経 ・ 感 覚 器 系 I

責 任 者	氏 名	森 望	内 線	7017
	教 室	神経形態学 (解剖学第一)	e-mail	morinosm@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日の16:00-18:00		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Structural principles of human brain and the nervous system		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

神経解剖学の教育目標は、ヒトの脳神経系の形態的な成り立ちとその由来を学び、高度に発達したヒトの脳機能発現の構造基盤を理解することにある。この学問はもともと肉眼解剖学の延長線上にあったが、前世紀初頭における神経組織学の発達とニューロン説の確立を経て、神経ネットワークの学問として発展してきた。最近では分子神経生物学やシステムバイオロジーの発達とともに、現代神経科学の構造基盤を形作る学問として重要な位置を占める。ここでは、臨床現場での各種脳神経疾患への対処に通ずる基礎学問として、脳神経系および感覚器系の構造と解剖学用語を学ぶ。微細構造レベルでの神経解剖や神経回路再編等の現代神経科学の構造的な要素も学習する。また、脳画像の基礎と併せて、近年急速に発達しつつある生体脳のイメージングについても学習する。脳神経系と感覚器系の解剖学用語を理解するとともに、その構造的成り立ちを総合的に理解することを到達目標とする。

(なお、脳解剖の実習は2年時に「神経・感覚器系 II」として学習する。)

2. 授業内容 (講義・実習項目)

授業は、系統的な講義として構成する。アトラスは必携とし、その図を理解することが重要。講義は教科書に準じつつプリントを併用。神経系全体の総論と各論、感覚器の構造について学ぶ。分子脳科学、脳画像の見方、脳内分子イメージングの方法論等についても学習する。基本的には構造の理解を主とするが、それぞれの部位の機能成立の構造基盤を神経回路のつながりとして理解することが重要。無論、神経解剖学用語 (日英) の理解も大切。

3. 教科書、参考書等 (★ は教科書、必携)

書 名	著 者	出版社	定 価
★解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器 (第6版)	W.Kahle (著)、平田 (訳)	文光堂	5,600円
神経解剖カラーテキスト (第2版)	A.R. Crossman, C. Neary (著) 野村、水野 (訳)	医学書院	5,600円
プロメテウス解剖学アトラス (頭部/神経解剖)	坂井、河田 (監訳)	医学書院	11,000円
人体の正常構造と機能 (神経系1、2)	河田、稲瀬他	日本医事新報社	各6,200円
神経科学- 脳の探究-	Mark F.Bear 他(著)、加藤他(訳)	西村書店	7,600円
脳単	原島 (著)	NTS	2,730円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験の結果を重視するが、講義・実習への参加態度と小テストも総合評価する。

5. 教員名

解剖学第一：森 望、大山恭司、安田邦彦

非常勤講師：萩原正敏 (京都大学医学部教授)

6. 備考 (準備学習等)

神経・感覚器系授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教官	教室
9	25	火	1	講義 1	概論 1 序論（神経解剖学の歴史、）	森	第 1
10	2	火	1	講義 2	概論 2 神経系序説（総論、脳の概観、発生と進化）	森	第 1
10	9	火	1	講義 3	概論 3 神経系の基本要素	森	第 1
10	16	火	1	講義 4	特別講義（精神疾患の分子基盤）	非常勤（萩原）	第 1
10	23	火	1	講義 5	脊髄	森	第 1
10	30	火	1	講義 6	脳幹と脳神経 1（延髄、橋、中脳）	大山	第 1
11	6	火	1	講義 7	脳幹と脳神経 2（脳神経）	安田	第 1
11	13	火	1	講義 8	小脳	森	第 1
11	20	火	1	講義 9	間脳 1（視床、特に背側視床）	森	第 1
			2	講義 10	間脳 2（視床上部、腹側視床、視床下部と下垂体）	大山	
11	27	火	1	講義 11	終脳 1（概論、嗅皮質、扁桃核、海馬）	森	第 1
			2	講義 12	終脳 2（大脳新皮質、層構造、皮質領野）	森	
12	4	火	1	講義 13	終脳 3（大脳辺縁系と大脳基底核）	森	第 1
			2	講義 14	終脳 4（線維路、他）	森	
12	11	火	1	講義 15	脳血管系と脳脊髄液系	森	第 1
			2	講義 16	植物神経系（自律神経系）	大山	
12	18	火	1	講義 17	脳機能系（運動系・感覚系）	森	第 1
			2	講義 18	感覚器 1：視覚系	森	
12	25	火	1	講義 19	感覚器 2：聴覚・平衡覚系	森	第 1
			2	講義 20	感覚器 3：嗅覚系・味覚系	森	
1	8	火	2	講義 21	脳組織化学と脳画像（生体脳イメージング）	森	第 1
1	15	火	2	講義 22	化学的神経解剖（神経薬理学との接点）	森	第 1
1	22	火	2	講義 23	機能的神経解剖（神経生理学との接点）	森	第 1
1	29	火	2	講義 24	病態脳／神経変性疾患（神経学・老年学との接点）	森	第 1

発 生 ・ 組 織 系 I

責 任 者	氏 名	小路 武彦	内 線	7027
	教 室	解剖学第三 (組織発生解剖学)	e-mail	tkoji@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	(木) 16:30~18:00		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Human development and Histology I		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医師となるために必要とされる正常人体発生学の基礎知識を修得する。この知識は、今後修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学の知識のエッセンスを伝えたい。

本講義では、各器官原基の発生及びその異常の特徴を適切な用語を用いて説明出来ることを到達目標とする。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

後期に人体発生学全般について発生ステージに沿って講義を行う。講義は第一講義室で行う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
参考書			
カラー機能組織学 (原著第2版) (仮)	J. B. Kerr	医歯薬出版	10,500 円
The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (9版)	K. L. Moore & T. V. N. Persuad	Saunders	6,207 円
標準細胞生物学 (2版)	石川春律、近藤尚武 柴田洋三郎 編	医学書院	5,670 円
ラングマン人体発生学 (10版)	T. W. Sadler	医歯薬出版	8,820 円
ムーア人体発生学 (8版)	K. L. Moore	医歯薬出版	12,600 円
永遠の不死：精子形成細胞の生物学	小路武彦 編	サイエンス社	2,310 円

4. 成績評価の方法・基準

成績の評価は、学期末に行う筆記試験の結果によって決定する。なお、本科目試験の受験には講義時間数の2/3以上の出席が必要であり、これに満たない場合は失格となる。

試験は100点満点とし、合計点が60点以上で合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

5. 教員名

解剖学第三 : 小路武彦

非常勤講師 : 井上靖久、江島邦彰

6. 備考 (準備学習等)

一年次前期の「Human Biology」で学んだ内容を復習しておくこと。

発生組織系授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	25	火	2	1. 生殖形成	A. 体細胞分裂と成熟分裂	解剖3・小路	第1
10	2	火	3	1. 生殖形成	B. 成熟過程における形態学的変化	解剖3・小路	第1
10	9	火	3	2. 排卵から着床まで		非常勤・井上	第1
10	16	火	3	3. 2層性胚盤		非常勤・井上	第1
10	23	火	3	4. 3層性胚盤		非常勤・井上	第1
10	30	火	3	5. 胚子期	A. 三胚葉誘導体 B. 2ヵ月中の外形	非常勤・井上	第1
11	6	火	3	6. 胎児期	A. 胎児の発生	非常勤・井上	第1
11	13	火	3	7. 体腔と漿膜	A. 体腔の形成	非常勤・江島	第1

内 臓 機 能 ・ 体 液 系 I

責 任 者	氏 名	蒔田 直昌	内 線	7031
	教 室	生理学第一 (分子病態生理学)	e-mail	makitan@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3.5
英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。

個々の内臓機能を学ぶ臓器の生理学を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義項目

- 1) 自律神経系
- 2) 呼吸
- 3) 血液・体液
- 4) 酸塩基平衡異常

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
教科書			
標準生理学	小澤瀨司 他	医学書院	12,000円
ギャノン生理学 23版	岡田泰伸 他	丸善	10,000円
新生理学	小幡邦彦 他	文光堂	5,500円
参考図書			
人体の正常構造と機能	坂井建雄、河原克雅	日本医事新報社	
コンスタンゾ明解生理学	岡田 忠他	エルゼビアジャパン	6,000円

4. 成績評価の方法・基準

筆答試験で評価する。

5. 教員名

講義担当

第一生理：蒔田直昌、松本逸郎、嶋田敏生

6. 備考（準備学習等）

講義は指定した教科書と参考図書の図を中心に口頭（パワーポイント）で説明を交えて行う。

【第一生理学HP】 <http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/physlgy1/>

内臓機能・体液系授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	25	火	3	細胞生理	細胞生理学	生理1・蒔田	第1
10	2	火	2	自律1	自律機能と恒常性, 交感神経系と副交感神経 (化学伝達と受容器)	生理1・松本	第1
10	9	火	2	自律2	自律神経求心性神経と内臓-内臓反射	生理1・松本	第1
10	16	火	2	血液と体液	骨髄幹細胞、赤血球の機能、ヘモグロビン	生理1・嶋田	第1
10	23	火	2	血液と体液	白血球・リンパ球と生体防御	生理1・嶋田	第1
10	30	火	2	血液と体液	血小板、血液凝固、線溶、補体系	生理1・嶋田	第1
11	6	火	2	血液と体液	血漿成分の機能	生理1・嶋田	第1
11	13	火	2	血液と体液	細胞外液と細胞内液	生理1・嶋田	第1
11	20	火	3	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	生理1・松本	第1
11	27	火	3	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗、閉塞性と拘束性疾患	生理1・松本	第1
12	4	火	3	呼吸3	ガス交換（酸素の運搬）、ヘモグロビンと酸素飽和度	生理1・松本	第1
12	11	火	3	呼吸4	ガス交換（炭酸ガスの運搬）、換気血流比	生理1・松本	第1
12	18	火	3	呼吸5	肺循環（肺血流、肺血管抵抗、肺内圧）	生理1・松本	第1
12	25	火	3	呼吸6	呼吸調節、呼吸中枢	生理1・松本	第1
1	8	火	3	酸・塩基平衡	血液ガス、pH、酸・塩基平衡調節	生理1・嶋田	第1
1	15	火	3	酸・塩基平衡	呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	生理1・嶋田	第1

医学ゼミ

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期、後期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- A. 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教官、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- B. 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- C. 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期・後期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

「医学ゼミ」平成24年度開講テーマ一覧(1年次)

(1年次)推薦入試・AO(国際保健医療、熱帯医学研究医)入試選抜学生

	講座名	対象学年 開講時期	ゼミテーマ	責任者	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	受講可 人数
1	へき地病院再生支援・教育機構	1年次前期 (推薦:地域医療)	へき地・離島医療入門	調 漸	長崎県で展開されるへき地や離島医療の現状を学ぶ	へき地病院再生支援・教育機構平戸教育拠点において合宿形式で平戸での地域医療の取り組み、福祉・保健と医療の連携、地域包括医療について学ぶ	夏期休暇中に2泊3日程度で集中講義を行う	へき地病院再生支援・教育機構平戸教育拠点研修棟 研修室(平戸市民病院内)	出席、レポート提出	10名まで
2	原研国際	1年次AO前期、 1年次前期	国際保健入門(1)	高村 昇	AO国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特に国際保健分野における活動を紹介する。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	原研各分野の教員が、それぞれの分野の背景・活動内容を平易に説明・紹介する。あわせて国際保健、国際医療のトピックについて情報を収集し、発表会を行うことで、国際保健・国際医療の実際についてより深い理解を得る。	月曜日5校時	原研棟3階コミュニケーションセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	10名
3	熱帯医学研究所臨床医学部門	1年次前期 (AO:熱帯医学)、 1~2年次一般学生も参加可能	熱帯医学入門	有吉 紅也	1)より幅広い視野を持った熱帯医学研究医を育成するために、熱帯医学が幅広い学問領域であることを理解させ、熱帯医学における基礎医学研究の重要性を学ぶこと 2)長崎大学における熱帯医学に貢献する基礎医学研究活動を学ぶこと	熱帯医学に関係する基礎医学研究に携わる医学系基礎研究分野教室及び熱帯医学研究所基礎教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。	月曜日5校時	熱帯医学研究所一階小会議室	出席状況およびレポート(英語)	10名まで
4	離島・へき地医療学講座	1年次前期 (推薦:地域医療) 2年次後期 3年次前期	しまで学ぶ地域医療	前田 隆浩	島嶼部における地域医療の現場を見て、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括医療についての基礎を理解する。	長崎県離島をはじめとした地域医療の現場に滞在し(原則3泊4日)、地域医療関連施設において見学あるいは体験実習を行った上で、地域医療と地域包括ケアについての討論を行う。	受講生と相談し、長期休暇等を利用して開講日を決定する。例年と同様に3泊4日の滞在型集中ゼミを行う。	長崎県離島をはじめとした地域医療の現場	出席・発表・レポート	各学年原則5~10名
5	生化学	1~6年後期	国際医療英語(定員20名、AO入試国際枠学生を優先する。)	伊藤 敬 西原俊明 小笠原 真司	国際的な場における医療現場で活躍できる英語力を養う。医療現場に必要な語句の理解を深めるとともに医療に関わるトピックを精選し、その理解を深める。題材に関しては、医療関連の雑誌や新聞記事から精選し、速読を意識した授業を行う。また、日本語と英語の表現方法の違いを学習する。特に学生が犯しやすい誤りとして、文法的な誤りや、コロケーション(連語)の間違いや日英発想の違いによる誤り等も視野に入れて講義を行う。この授業を通して、英語の論の展開の仕方、さらには、英語を母語とする話者の直感に触れることで、英語の知識を深めていただきたい。	授業では、演習の要素も取り入れ、リスニング、及び、スピーキングスキルの訓練を行う。また、医学に関わる英文記事を読み、短時間にまとめて英語で発表する訓練を併せて行う。	火曜日5校時	第1講義室	テストと課題、授業中のアクティビティ、出席、プレゼンテーション等を総合的に評価する。テスト(70%)、課題・プレゼンテーション(20%)、授業への積極的参加(10%)	

国際医療英語

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1～6年 前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	選択	単位数	前期1単位、後期1単位
英語名	English for Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

国際的な場における医療現場で活躍できる英語力を養う。医療現場に必要な語句の理解を深めるとともに医療に関わるトピックを精選し、その理解を深める。題材に関しては、医療関連の新聞記事から精選し、速読と精読のバランスを意識した授業を行う。

今年は、特に英語力の養成に焦点をあて、TOEIC 700前後の力を最低つけることを目標とする。特にTOEICにおけるリスニングセクションの対策を視野に入れて授業を行なう。また、医学に関する基本的な英語表現や語彙を身につけてもらう。

2. 授業内容（講義・実習項目）

授業では、演習的要素を取り入れ、日本語を英語らしい表現で書けたり言えたりできるように訓練する。また、リスニングの訓練も併せて行う。リスニングに関しては、TOEIC形式の問題にたくさん挑戦してもらう。リーディングに関しては、日本語訳にするよりも、英語を直接理解し、速読の訓練を行う。

3. 教科書、参考書等

前期の小笠原の授業で使用するテキストは、以下の2冊です。

1. *The Picture of Health* (南雲堂 1700円)
2. *メディカル英語小事典 (第2版)* (英光社 1100円)

テキストは、1回目の授業の時に、講師が持参するので、その場で購入してもらいます。1回目から、上の2冊のテキストを利用して、授業を始めます。なお、メディカル英語小事典を昨年購入した方は、購入の必要はありません。昨年購入したメディカル英語小事典を授業にご持参ください。

4. 成績評価の方法・基準

定期試験70%、小テスト15%、授業時の発表等15%で、総合的に評価します。合格ラインは、定期試験、小テスト、授業時の発表の総合評価で、60点以上です。

5. 教員名

学内非常勤 : 小笠原 真司 (大学教育機能開発センター)

6. 備考（準備学習等）

定員20名、A0入試国際枠学生を優先する。

予習は、講師指定の読み物を精読してきてください。また、医学英単語も毎週、予習で指定したものを覚えてきてもらいます。

TOEIC 750点を目指す学生が受講してください。

出席が悪い学生は、お断りです。遅刻もお断りです。

国際医療英語授業予定（前期）

月	日	曜日	5	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	10	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-1(身体の部位と検査名) テキスト Unit. 1	大教センター 小笠原教授	セミナー室
4	17	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-2(身体の部位と検査名) テキスト Unit. 2	小笠原教授	セミナー室
4	24	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-3(診療科に関する語句) テキストUnit. 3	小笠原教授	セミナー室
5	1	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-4(診療科に関する語句) テキスト Unit. 4	小笠原教授	セミナー室
5	8	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 表現-5(薬に関する語句) テキスト Unit. 5	小笠原教授	セミナー室
5	15	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 表現-5(薬に関する語句) テキスト Unit. 6	小笠原教授	セミナー室
5	22	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-7(病名・病状に関する語 句) テキストUnit. 7	小笠原教授	セミナー室
5	29	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-8(病名・病状に関する語 句) テキストUnit. 8	小笠原教授	セミナー室
6	5	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-9(病名・病状に関する語 句) テキストUnit. 9	小笠原教授	セミナー室
6	12	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-10(病名・病状に関する語 句) Unit. 10	小笠原教授	セミナー室
6	19	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-11(消化器系の語句) テキストUnit. 12	小笠原教授	セミナー室
6	26	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-12(消化器系の語句) テキストUnit. 13	小笠原教授	セミナー室
7	3	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-13(栄養に関する語句) テキストUnit. 14	小笠原教授	セミナー室
7	10	火	5	医学英語 I	医療現場で使われる実用的な英語 語彙-14(栄養に関する語句) テキストUnit. 15	小笠原教授	セミナー室
7	17	火	5	医学英語 I	定期試験	小笠原教授	セミナー室

国際医療英語

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1～6年 後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	選択	単位数	前期1単位、後期1単位
英語名	English for Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

国際的な場における医療現場で活躍できる英語力を養う。医療現場に必要な語句の理解を深めるとともに医療に関わるトピックを精選し、その理解を深める。題材に関しては、医療関連の雑誌や新聞記事から精選し、速読を意識した授業を行う。また、日本語と英語の表現方法の違いを学習する。特に学生が犯しやすい誤りとして、文法的な誤りの他、コロケーション(連語)の間違いや日英発想の違いによる誤り等も視野に入れて講義を行う。

この授業を通して、英語の論の展開の仕方、さらには、英語を母語とする話者の直感に触れることで、英語の知識を深めていただきたい。

2. 授業内容(講義・実習項目)

授業では、演習的要素も取り入れ、リスニング、及び、スピーキングスキルの訓練を行う。また、医学に関わる英文記事を読み、短時間にまとめて英語で発表する訓練を併せて行う。

3. 教科書、参考書等

いろいろなジャーナルの論文を選ぶ予定である。その他、適宜、指示する。
プリント教材とテキストを利用する。

4. 成績評価の方法・基準

テストと課題、授業中のアクティビティ、出席、プレゼンテーション等を総合的に評価する。
テスト(70%)、課題・プレゼンテーション(20%)、授業への積極的参加(10%)

5. 教員名

非常勤 : 西原 俊明 (大学教育機能開発センター)

6. 備考(準備学習等)

定員20名、A0入試国際枠学生を優先する。

積極的に、そして真面目に授業に出ること。演習形式なので、出席を重視する。

国際医療英語授業予定（後期）

月	日	曜日	5	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	2	火	5	医学英語II	オリエンテーション：授業の進め方・内容、及び、授業で扱うスキルについて説明、解説を行う。	西原俊明	セミナー室
10	9	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(1)、速読(1)、英語による説明、Plain English (1)	西原俊明	セミナー室
10	16	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(2)、速読(2)、英語による説明、Plain English (2)	西原俊明	セミナー室
10	23	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(3)、速読(3)、英語による説明、患者の健康情報に基づくペアワーク(1)	西原俊明	セミナー室
10	30	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(4)、速読(4)、英語による説明、Plain English (3)	西原俊明	セミナー室
11	6	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(5)、速読(5)、英語による説明、患者の健康情報に基づくペアワーク(2)	西原俊明	セミナー室
11	13	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(6)、速読(6)、英語による説明、Plain English (4)	西原俊明	セミナー室
11	20	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(7)、速読(7)、英語による説明、グループディスカッション(1)	西原俊明	セミナー室
11	27	火	5	医学英語II	Review Test (1)、ペアワーク(3)	西原俊明	セミナー室
12	4	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(8)、速読(8)、英語による説明、Plain English (5)	西原俊明	セミナー室
12	11	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(9)、速読(9)、英語による説明、Plain English (6)	西原俊明	セミナー室
12	18	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(9)、速読(9)、英語による説明、Plain English (6)	西原俊明	セミナー室
12	25	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(10)、速読(10)、英語による説明、グループディスカッション(2)	西原俊明	セミナー室
1	8	火	5	医学英語II	医師と患者の会話(11)、速読(11)、英語による説明、Plain English (7)	西原俊明	セミナー室
1	15	火	5	医学英語II	Review Test (2)、ペアワーク(4)	西原俊明	セミナー室

Communication Skills for First Year Medical Students

instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time: to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp //
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives	
The course aims to create a cooperative and collaborative learning environment structured around small discussion groups in which participants will fulfill different roles. Students will develop their language and critical thinking skills through group discussion, negotiation, and collaborative problem solving. By the end of the course, students should be comfortable discussing and presenting medical topics in English. Topics covered in the course will be related to your core medical classes (Human Biology) as well as to your future roles as medical professionals.	
Book	
<p><u>Human Biology</u>, see Human Biology course for details <u>TOEIC practice test booklet</u> - to be purchased at Seikyuu when instructed by instructor <u>Word Engine</u> subscription - according to instructor's instructions</p>	
Topics	
1	Introduction of the course and on-line tasks – self-introductions + how to write email (communicating with your instructor)
2	How to study vocabulary – deciding of groups, group discussion, individual vocabulary (incl. TOEIC) study plans
3	CALL center - vocabulary test; on-line study tools
4	Text organization - Skimming and Scanning – group discussion: understanding texts
5	The Paragraph - group task: how to evaluate a paragraph Book: Human Biology - plan a poster presentation
6	Writing for clarity- how to evaluate written work: creating a rubric - progress report on poster presentation
7	CALL center - group reports - introduction to the TOEIC listening test
8	MIDTERM - group presentations - poster presentations
9	Organizing information - Cause and Effect organization
10	Preparing for an oral presentation - group discussion: creating a rubric to evaluate the oral presentation
11	Practicing the presentations in groups; critiquing each other's work; trying out the rubric
12	Oral presentations -
13	CALL center - the reading part of the TOEIC test - Understanding the questions
14	TOEIC - test taking strategies
15	TOEIC - practice test
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, reading and writing responses, a group presentation and a final group report.	

TOEIC workshop

instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time: to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp //
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives	
<p>The TOEIC workshops involve practical hands-on TOEIC practice and tactics to improve your TOEIC score. This is a not-for-credit course. However, for those whose most recent TOEIC score falls below a pre-determined score*, the course is a pre-requisite to take the following semester's for-credit course .</p> <p>Understanding how the TOEIC is organized, what strategies are successful, and practicing key tactics will ensure that you can reach the TOEIC goal set by the university.</p>	
Book	
<p>Tactics for TOEIC – Listening and Reading, Grant Trew, Oxford University Press Word Engine - an online vocabulary practice tool; details at first meeting</p>	
Topics	
1	Introduction to the class / Introduction to the TOEIC/Word Engine Vocabulary Check (this class will be held at the CALL center)
2	Part 5 Part 1 - Listening Practice
3	Part 2 mini-practice part 5
	Part 6 Part 2 - Listening Practice
5	Part 3 mini-practice part 6
6	Part 7 Part 2 - Listening Practice
7	Part 4 mini-practice part 7
8	Strategy review + Practice test - 2.5 hours
9	Part 5 Part 1 - Listening Practice
10	Part 2 mini-practice part 5
11	Part 6 Part 2 - Listening Practice
12	Part 3 mini-practice part 6
13	Part 7 Part 2 - Listening Practice
14	Part 4 mini-practice part 7
15	Final Practice Test - 2 hours
16	Reflections + Further Study
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated based on attendance, homework assignment completion, and class participation.</p>	

Minimum required TOEIC scores for TOEIC workshop exemption:

By the end of the first semester of the first year - 500 points

By the beginning of the second semester of the second year - 600 points

By the end of the first semester of the third year - 700 points

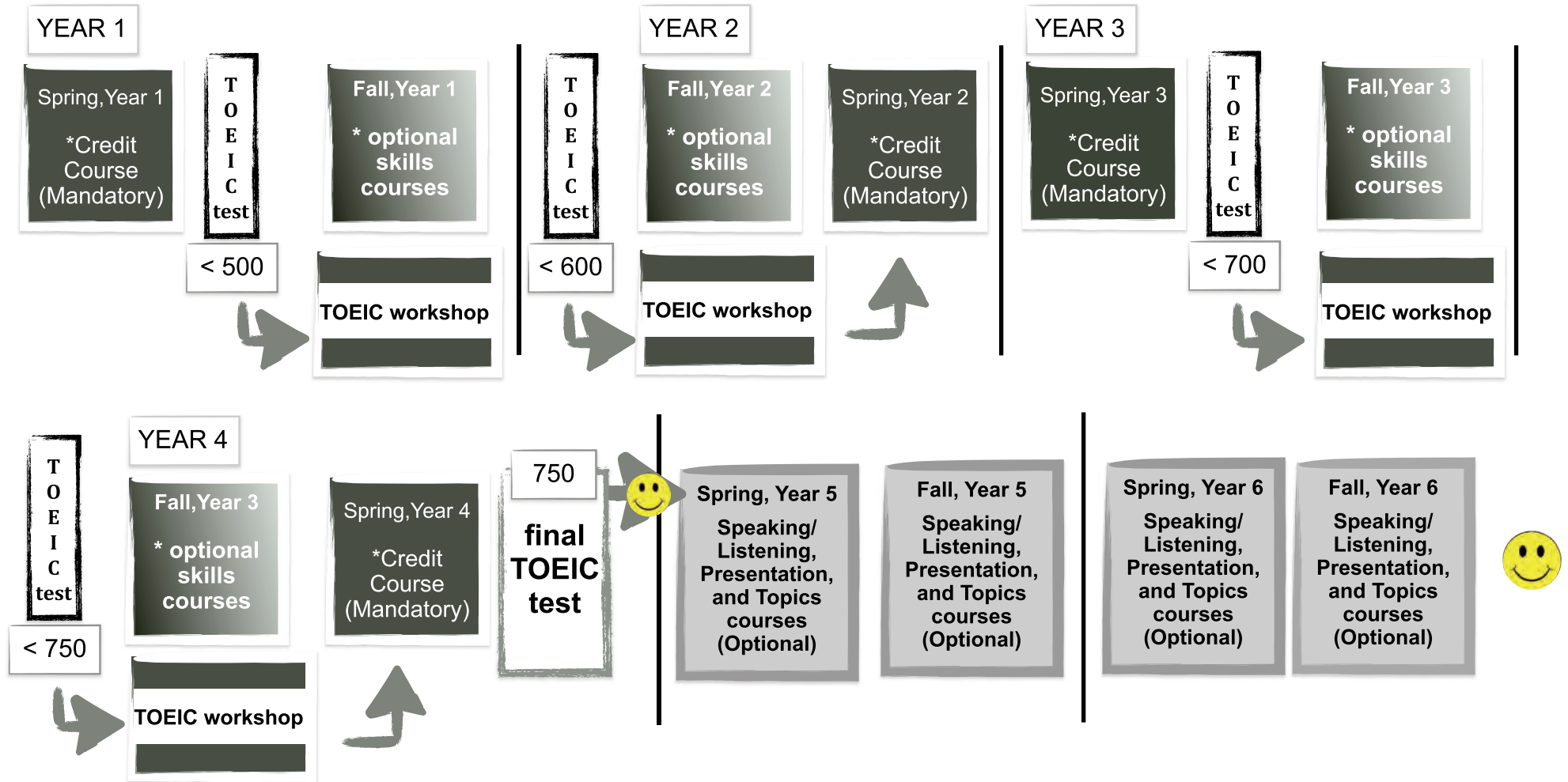
By the beginning of the first semester of the fourth year - 750 points

TOEIC

- 注 意 -

TOEICワークショップ参加必須について (スコア500点以下の学生対象)

後期の単位に係るTOEICコース (スコア500点以下の学生対象) は、ワークショップに参加し、合格と認められた学生のみ受講が許可されますので、500点以下の得点者は、必ず参加しパスマークを取得してください。



English Communication in a Medical Context

instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time: to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives		
<p>This course will focus on improving your professional English language communication ability through comprehensive instruction in all four skill areas; speaking, listening, reading, and writing. Topics covered in the course will focus on English communication in a medical context. Students will play an active role in choosing topics to explore for in-class study based on what they determine to be the most beneficial for their English improvement.</p>		
Book		
<p><u>Textbook/class materials:</u> (to be decided in class) Internet access</p>		
Class Outline		
1	Introduction to the course	<p>Students will decide in groups what topics they want to focus on. They will study and practice these topics in a collaborative and cooperative environment, and present and teach what they learned to other groups. Students will develop their own rubrics to evaluate their work and the work of their peers.</p> <p>Some suggestions for topics: Introducing yourself in a medical context, English for the patient interview, the language of pain, Vaccines, Selective Attention, Presenting research , Common Complaints, Accidents and Injuries, Physical Examinations, Medication, Medical History, Life Style and Diet, ...</p>
2	Assigning of groups/ first topic selection	
3	Group discussion topic 1	
4	Presentation practice 1	
5	Presentation topic 1	
6	Group discussion topic 2	
7	Presentation practice 2	
8	Presentation topic 2	
9	Group discussion topic 3	
10	Presentation practice 3	
11	Presentation topic 3	
12	Group discussion topic 4	
13	Presentation practice 4	
14	Presentation topic 4	
15	Final Presentation + reflection on the course	
Course work and Evaluation		
<p>Students will be evaluated on the basis of individual classwork, group work, speaking and listening skills development, and a final presentation (final exam).</p>		

Diagnosis - Discussion of N.Y. Times Medical Articles in English

instructors Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be decided

Course Objectives	
<p>In this course, we will explore a series of articles from Diagnosis, a monthly column from New York Times Magazine written by Lisa Sanders, the consulting MD on the popular TV series “Dr House”.</p> <p>This course aims to create a cooperative and collaborative learning environment that allows for a free exchange of ideas and opinion. Students will develop their communication and critical thinking skills in English through group discussion, role negotiation, collaborative problem solving, and presenting. By the end of the course, students should be comfortable discussing and presenting medical topics in English.</p>	
Book	
<p>All materials will be available online.</p>	
Topics	
1	Introduction of the course and on-line tasks – self-introductions + how to write email (communicating with your instructor) - Power intro
2	Introduction of the groups. Division of the group roles. Students input on the readings. First reading: Coulhan, Medical Metaphors. Students choose the first article .
3	Discussion groups + Introduction of the rubric for evaluating presentations.
4	discussion: how to present + trial run of rubrics + choosing the second article
5	Discussion groups: second article
6	Negotiating division of presentation tasks + preparing for presentation
7	Practice presentations in group + fine tune the rubric
8	PRESENTATIONS - group presentations - poster presentations
9	Discussion of presentations + deciding on third article and fourth article
10	Discussion groups: third article - negotiating division of presentation tasks + preparing for presentation
11	Discussion groups: fourth article - negotiating division of presentation tasks + preparing for presentation
12	Practice presentations in group + fine tune the rubric
13	Simultaneous practice presentations for the class
14	Individual Presentations
15	Course reflections. - Self-evaluation.
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, reading and writing responses, a group presentation and a final group report.</p>	